

1. 内外政

▼大統領・政府・最高会議の動き

・9日、チャーリー大統領府副長官は、明らかに全面衝突の誘発を目的とした、ロシア兵及び軍用品を伴った巨大な部隊がウクライナとの国境を越境する恐れがあったが、ポロシェンコ大統領が各国首脳と臨時交渉を実施し、かかる挑発行為を止めることに成功した旨発言。

・11日、外務省は、ロシアが人道支援の必要性に関して発言を繰り返す傍ら、ロシア領土からウクライナ領土への攻撃が継続している旨の非難声明を发出。

・ポロシェンコ大統領は、11日、オバマ米大統領及びマウラー国際赤十字委員会総裁と、12日、レンツイ伊首相、パローゾ欧州委員長、マルグヴェラシヴィリ・グルジア大統領及びルカシェンコ・ベラルーシ大統領と、13日、潘国連事務総長、ニーニスト・フィンランド大統領及びバイデン米副大統領と人道支援問題等につき電話会談を実施。

・14日、最高会議は、ウクライナ独自の制裁法及びガス輸送システム法を採択(制裁法において批判を受けていたメディアに関する項目は除外)。

・14日、キエフ、ハルキウ及びドニプロペトロウスクから、赤十字の名の下に最初の物資を運搬するウクライナの人道支援使節団が出発。15日、同支援物資がルハンスク州に到着し、国際赤十字へ受け渡し。

・15日、ポロシェンコ大統領は、キャメロン英首相と電話会談を実施し、(14日に)ロシアの戦車が進入したとの報道(英「ガーディアン」等)は事実であるとする一方、既にその大部分をウクライナ側が破壊した旨発言。

▼ロシアによる「人道支援物資」に関する動き

・12日、チャーリー大統領府副長官は、ロシアによるルハンスク州への「人道支援物資」供与に関し、同意の得られていないロシア車両のウクライナ領土への進入は認められない等と発言。

・13日、ハルキウ州行政府は、ロシアによる「人道支援物資」を載せた車列が合意されていた国境検問地点とは異なる方向へ移動しており、如何なる経路を進んでいるか不明である旨発表。同日、アヴァコフ内相は、如何なるロシアの「人道支援」部隊も、ハルキウ州へは通さない旨発言。

・13日、ツェホルコ大統領報道官は、ウクライナは赤十字が借り上げた車両に乗せ替え赤十字の代表者の随行を得ることを条件として、ロシア側の人道支援を受け取ることに同意したが、ロシアは同提案を拒否したとし、人道支援物資運搬を口実とした(ロシアによる)直接的な侵攻の可能性に言及。

・15日、リセンコ国家安全保障・国防会議報道官は、ウクライナ側はロシアの人道支援物資の受け取り作業を行う準備が

できているが、国際赤十字委員会から同物資に関する書類を一切受け取っておらず作業ができない旨発言。一方、同日、反テロ作戦広報部は、ロシア側国境地帯においてウクライナ職員を交えた露支援物資の確認作業が始まった旨発表。

▼その他

・9日、独立広場及びプレシチャーティク通り等で、8日に引き続き、1,000名以上の市民が参加し、バリケード及びテントが撤去。大きな混乱なし。

・9日、チュバロフ・クリミア・タタール民族代表機関「メジュリス」代表は、ロシア連邦保安庁により、チュバロフ代表に続き、自身の補佐官もクリミア自治共和国への入域を5年間禁止された旨発言。

・13日、ウクライナ正教会の新モスクワ総主教として、オヌーフリー・チェルニフツィ・ブコヴィナ管区主教が選出。

・13、14日、プーチン大統領をはじめとする露政権幹部がクリミア自治共和国を訪問。これに対し、14日、ウクライナ外務省は、抗議声明を发出。

2. 経済

▼財政・金融

・12日、中央銀行は、国内通貨フリヴニャの価値下落が進行し最低値を記録(13.13フリヴニャ/米ドル)、ロシア・ルーブルに対しても4月14日以来の最低値(3.635フリヴニャ/ルーブル)を記録した旨発表。

▼財政支援

・11日、ファン世銀地域局長は、財政部門開発政策融資の最初のディスバースに関する署名の後、5億米ドルに相当する第二回目のディスバースについても来年頭の理事会において承認されることを期待する旨発言。

・12日、最高会議は、日本政府及びウクライナ政府の間の経済改革のための開発政策融資に関する合意の批准決議を採択。

・12日、ポロシェンコ大統領は、EUが人道的援助のため、250万ユーロの支援の表明があったとし、人道支援及び移住者の再定住の観点での特別な調整メカニズム構築を指示した旨発言。

・14日、シェレメータ経済発展・貿易相は、IMFが課している全ての必要な要件を満たしたことをもって、8月末には、IMFより第2回目のトランシェを受け取れるだろう旨発言。

・15日、キャメロン英首相は、英国が国連機関による人道支援のために10億ポンドの支援の用意がある旨表明。

▼東部情勢

・15日、国連事務所は、ドンバス地域での砲撃が続いており、13日付けで、これまでの累計値として、2,119人が死亡、5,

043人が負傷、国内避難民数が約15万5,800人、ロシアへの避難民が18万8,216人と発表。

3. 防衛

▼東部の情勢

- ・ドネツク及びルハンスク両州各都市で戦闘が継続。
- ・11日、リセンコ国家安全保障・国防会議報道官は、反テロ作戦における累計値として、ウクライナ軍関係者568名が死亡、2,120名が負傷と発表。
- ・14日、英ガーディアン紙記者等が、ロシアの軍事車両の一団がロシア領土からウクライナ領土へと進入するのを目撃した旨発言。

・15日、ザハルチェンコ「ドネツク人民共和国首相」は、国境から補給が入った、150の戦闘車両であり、その内、戦車が30両、残りは歩兵戦闘車及び装甲兵員輸送車である、また、4か月間ロシア領土内で訓練をした1,200名の人員も受け取った旨発言。

・15日、リセンコ国家安全保障・国防会議報道官は、ルハンスク市の包囲が終わりつつある旨発言。

・15日、ウクライナ軍参謀本部軍事協力・平和維持活動副部長は、国際平和維持活動に参加している部隊の一部を撤収し、ウクライナ東部の軍事作戦に投入することになる旨発言。

(了)